

保護者の皆様へ

大阪産業大学附属中学校  
校長 平岡 伸一郎

## 2018年度 アンケート結果のご報告

秋冷の候、保護者の皆様にはますますご清祥のことと存じます。平素は本校教育活動に深いご理解とご支援をいただき、誠にありがとうございます。さて、学校教育法の改正に伴い学校評価が義務づけられるようになりました。本校では生徒に「授業を受ける態度と学習についての自己評価アンケート」「学校生活についてのアンケート」とともに、授業科目ごとの「授業アンケート」を実施しています。2018年度のアンケート結果を踏まえて、その分析と今後の課題を明らかにします。

### 1. 「授業アンケート」の結果について

「授業アンケート」の結果は別表の通りです。アンケート結果については、各教科担当の教員に担当クラスごとに結果を戻し、自身の授業内容についての「振り返り」の材料として、次年度の授業内容の改善に役立てるようにしています。以下、各クラスで実施したアンケートを集計し、それぞれ学年ごとにまとめた結果について見ていきます。なお、表中に1年生の回答欄がないのは、本校では2018年度より生徒募集を停止しており、1年生の生徒が在籍していないためです。

アンケート結果の全体的な特徴として、すべての質問項目に対して、2年生が3年生とほぼ変わらないくらい肯定的な回答をしています。例年、アンケートは1月下旬に実施しており、3年生は高校受験を間近に控え、学習へのモチベーションが高まっているため、アンケートの各質問項目に対し、低学年より肯定的な回答が高い傾向を示し、2018年度の3年生も例年と同じ傾向が出ています。2年生の数字が3年生と遜色ないのは、2年生の在籍生徒数は1クラス17名と少数でありながら、習熟度別にクラスを分割しているのがその理由と考えられます。2年生は1年次には17名全員で授業を実施していたのですが、本年度から英語、数学などの学力差が付きやすい科目については、上に記したように習熟度別の分割授業を展開しています。そのことにより、生徒一人一人の細部にまで教員の目が行き届きやすく、生徒の授業への参加意識も高まり、生徒の授業理解が深まったようです。

そのことを裏付けるように、2年生のアンケートの質問項目に対する回答を前年度の2年生のものと比較してみると、授業に対する評価が上昇しているのは顕著に出ています。例えば、⑦「授業は、先生の問いに答えたり発表したりするなど参加しやすいものですか」の質問に対して、「参加しやすい」との回答は前年度の70%から81%へ、⑧「授業は、先生と生徒の心が触れ合うものとなっていますか」の質問に、「心の触れ合うものとなっている」の回答が前年度の65%から79%へ、⑨「授業を受けて、この教科・科目について興味が深まったと思いますか」の質問に、「興味が深まったと思う」の回答が53%から68%へとされており、他の質問に対する肯定的な回答も同じように数字が上昇しています。

次にアンケートの各質問項目で特徴的なものについてみていきます。

④「授業は分かりやすいですか」の質問に、2、3年の約8割の生徒が「分かりやすい」と回答しています。また、⑦「授業は、先生の問いに答えたり発表したりするなど参加しやすいものですか」の質問に

も2、3年の約8割の生徒が「参加しやすい」とやはり回答の数字は高くなっています。先ほど2年生の例を挙げましたが、3年生も少人数クラスで授業をおこなっており、必然的に生徒一人当たりに対する教員からの問いかけや働きかけの回数が多くなるので、生徒の授業への参加意識が高くなっているからだと思います。また、積極的に授業に参加することによって、授業の理解度も深まっていることがうかがえます。

⑨「授業を受けて、この教科・科目について興味が深まったと思いますか」と⑩「授業を受けて、学力がついたと思いますか」の質問にも、それぞれ「興味が深まったと思う」、「学力がついたと思う」と回答した生徒は中学2、3年で6割を超えているのは、やはり授業に参加しやすい雰囲気によって、生徒の授業に対する集中力が高まった結果だと考えられます。⑭「この教科の内容は理解できますか」の質問に対しても、中学2、3年で85%以上の生徒が「理解できる」、「だいたい理解できる」と回答していますが、⑬「この教科の勉強を日常していますか」の質問に対する「毎日している」「ときどきしている」の回答の数字がもっと上昇すれば、さらに教科の内容が「理解できる」と回答する数値は上昇すると思います。われわれも生徒たちが正しい学習習慣を身につけるように、適切な課題を課す必要があります。

## 2. 「授業を受ける態度と学習についての自己評価アンケート」の結果について

全体的な特徴として、まず目を惹くのが2年の授業に臨む姿勢についての質問①～③に対する「守っている」の回答の数値の低さと、授業中の態度⑤「授業中にノートをとる」、⑥「授業中いねむりをしない」、⑨「授業に積極的に参加している」の質問に対する肯定的な回答の高さとのギャップです。①「チャイムが鳴ったら席に着く」、②「チャイムが鳴ってからトイレや忘れ物を借りに行かない」の質問に対する2年生と3年生の「守っている」の数値を比較するとその差は歴然としています。

ただ、⑤、⑥の質問に対する「守っている」、⑨に対する「積極的に参加している」の数値は3年を大きく上回っています。3年1組、3年2組もそれぞれ15名、22名と生徒数は決して多いわけではなく、教員の目が一人一人に行き届きやすいのですが、2年生は生徒数が17名でなおかつ教科によってクラスを2分割するので、さらに教員の目が行き届き、一人一人に声をかける機会も多くなることによって3年生より数値が高くなっていると考えられます。⑩「制服をきちんと着用し、姿勢を正して授業を受けている」の質問に対する「守っている」と回答した生徒が多いのも同様の理由からだと考えられます。

学習についての自己評価についても、⑪「宿題や課題があればきちんと取り組んでいる」、⑬「1日に家庭学習をどの位していますか」の回答を見ると、2年生は3年生と同等に学習に取り組んでいる様子がうかがえます。

## 3. 「学校生活についてのアンケート」の結果について

全体的にやはり2年生が教員の指導に対して、また自身の学校生活に対して高い評価をしています。特に⑯「この学校の先生は、生徒指導にしっかり取り組んでいる」、⑰「この学校の生徒は、挨拶をきちんとしている」、⑳「この学校の生徒は、校則を守っている」の質問に対して、「よくあてはまる」と回答している生徒が多く、これを見ると生徒数の少なさはあるものの学校生活に前向きに取り組んでくれているようです。

生徒の学校生活についての評価ですが、「この学校の生徒は、挨拶をきちんとしている」の質問に対して、「よくあてはまる」と約8割の生徒が思っており、「ややあてはまる」まで含めると95%の生徒がそ

う思っています。本校では毎週金曜日には生徒会が校舎の玄関前に立って挨拶運動をおこない、生徒が挨拶を活発におこなうように啓発活動をすすめています。他にも毎日、園芸委員が校舎前の花壇に水やりをしている際も登校してくる生徒に自然と挨拶を交わしており、そうした活動を通じて生徒の間で挨拶が定着しています。⑱「この学校の生徒は、学校生活に積極的に参加している」の質問に対しても「よくあてはまる」「ややあてはまる」と全員が回答しています。生徒募集を停止したため、1年が不在で、2年も1クラスだけと生徒数が少なく学校行事の運営も厳しい状況となっているのですが、生徒数が少ないことによって逆に生徒たちは多数の中に埋もれることがないので、一人一人の参加意識は高まったかもしれません。

⑲「この学校は、進路についての情報をよく知らせてくれる」の質問に対し、「よくあてはまる」と3年生で多くの生徒が答えているだけでなく、2年生でも非常に多くの生徒が答えています。しかし、⑳「私は、進路について目標を持って毎日の学校生活を送っている」の質問に対して2年生は3年生ほど肯定的な回答が多くなっていません。まだ2年の段階では進路については具体的な像を描けていないようです。

次に教員の指導に対する生徒からの評価ですが、「この学校は、いじめを許さないようにしっかり取り組んでいる」、「この学校の先生は、生徒指導にしっかり取り組んでいる」の質問に対し、「よくあてはまる」「ややあてはまる」と9割以上の生徒が回答しています。保護者の方から学校に対するいじめ防止、生活指導に対し、期待されるところが大きいので厳しく指導しております。生徒たちも厳格な指導に対し、素直に応えてくれているので、学校内・各教室内の秩序はよく保たれています。生徒の回答はそうした学校の生活指導面に対する評価と思えます。